

## 福島県における「食」と「ふるさと」新生運動における研究

経営学部 経営学科 梅村ゼミナール  
B5R11137 林邊 暁

### 【卒業論文概要】

2011年3月11日、東日本大震災。東北～関東にかけて大きな被害を及ぼした。被害を受けた福島県においては、地震、津波の被害のみならず、原子力発電所事故による二次的災害をも被り、その影響は県を支えていた農林水産業にまで及んだ。

東日本大震災から約4年後の平成25年3月に策定した「ふくしま農林水産業新生プラン」で掲げた基本目標「“いのち”を支え未来につなぐ新生ふくしまの『食』と『ふるさと』」の実現に向け、「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の取り組みを開始。

「食」と「ふるさと」新生運動の趣旨は以下の通りである。

趣旨：生産から流通・消費に至るさまざまな立場の人々が想いを一つにして、東日本大震災及び原子力災害を乗り越え、以前よりも豊かで魅力ある農林水産業・農村漁村を創造し、将来を担う子供達に「食」と「ふるさと」をしっかりと引き継いでいくことを目的とした取組。

(引用：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fff-syoku-furusato/about-syokufuru.html>)

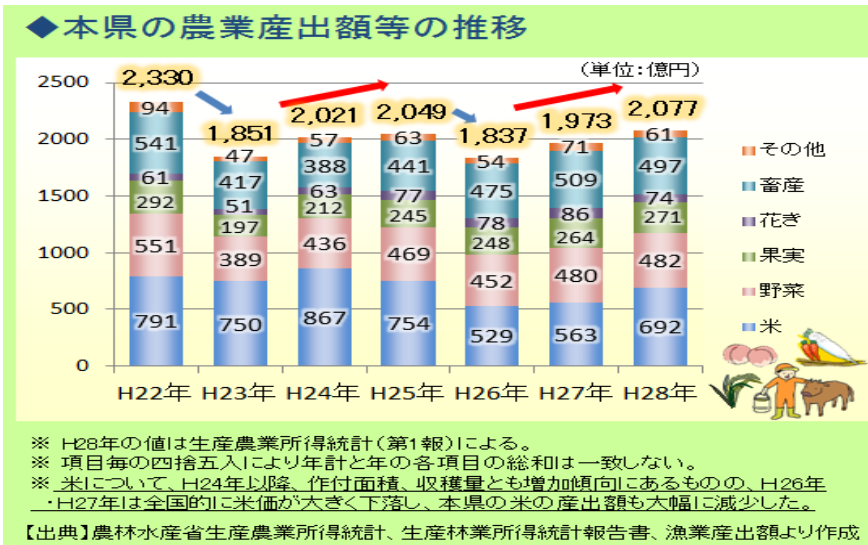
本稿では、福島県における「食」と「ふるさと」新生運動について研究を進め、福島県内における果樹園を事例に、東日本大震災後どのように「食」の復興をしてきたかを調査し、自らの考察を述べていく。この概要については、目次に順じて記載していく。

### 序章 はじめに

#### 1. 研究背景

筆者の出身地である福島県の第一次産業に関する東日本大震災以前の詳細は以下の通りである。

第一次産業：農林水産省による統計では、2009年（平成21年）の都道府県別の農業産出額は福島県が2450億円となり、金額では全国7位である。県内では農業産出額が多い順に福島市（195億円、県内1位、東北12位）、郡山市（188億円、県内2位、東北14位）、伊達市（140億円、県内3位、東北20位）となる。主要農産物は福島盆地のモモ、ナシ、あんぼ柿等である。しかしながら、東日本大震災後の出荷額推移は以下の図の通りである。



東日本大震災、福島第一原発事故による風評被害に加え、農業就業人口の減少が進んでいる現状にも関わらず、農林水産物の出荷額が伸びている年が覗える。そこにどのような工夫や取り組みがあるのかを調べ、これからにおける「食」の在り方を提示できるのではないかと感じたため、今回このテーマを設定、研究したいと考えた。

## 2. 研究目的

本稿では、福島県における「食」と「ふるさと」新生運動について研究を進め、福島県内における果樹園を事例に、東日本大震災後どのように「食」の復興をしてきたかを調査し、自らの考察を述べていく。

## 3. 研究手法

文献調査、実地調査、インタビュー調査、アンケート調査

### 第一章 福島県における「食」について

1. 福島県における「食」の現状
2. 東日本大震災による変化（東日本大震災前の「食」との差異）

### 第二章 ふくしまからはじめよう「食」と「ふるさと」新生運動について

#### 1. 「食」と「ふるさと」新生運動 とは

趣旨：生産から流通・消費に至るさまざまな立場の人々が想いを一つにして、東日本大震災及び原子力災害を乗り越え、以前よりも豊かで魅力ある農林水産業・農村漁村を創造し、将来を担う子供達に「食」と「ふるさと」をしっかり引き継いでいくことを目的とした取組。

概要：平成25年3月に策定した「ふくしま農林水産業新生プラン」で掲げた基本目標「いのち」を支え未来につなぐ新生ふくしまの『食』と『ふるさと』の実現に向け、農林漁業者、県民、関係機関・団体等が一体となり4つの運動を展開。①食の安全・安心運動 ②生産再生運動 ③風評払拭、消費拡大運動 ④情報発信運動

**「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」推進方針について**

【平成25年10月5日決定】

**趣 旨** 本県農林水産業・農山漁村が東日本大震災及び原子力災害を乗り越え、将来を担う子供達に「食」と「ふるさと」をしっかりと引き継いでいくため、「一人一人が復興に向けて歩んでいこう」「ふくしまから新しい流れを創っていこう」という未来への意志を込めたスローガン「ふくしまから はじめよう。」と理念を共有し、生産者自らの積極的な取組はもとより、生産から流通・消費に至る様々な立場の人々が一体となり、その思いと力を一つにして取り組む運動を展開する。

**概 要** 「“いのち”を支え 未来につなぐ 新生ふくしまの『食』と『ふるさと』の実現

<p><b>食の安全・安心運動</b></p> <p><b>&lt;安全対策の徹底による食の安全確保&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産物の検査体制の強化</li> <li>安全な農林水産物の生産推進</li> </ul> <p><b>&lt;消費者の食への安心感の醸成&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全確保対策等のわかりやすい情報提供等により消費者の食の安心感につなげる。</li> </ul>	<p>農林漁業者、 県民、関係機 関・団体等が 一体となった 運動の展開</p>	<p><b>生産再生運動</b></p> <p><b>&lt;力強い農林水産業の生産体制の整備&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲ある担い手の育成、生産基盤の整備、農地の集積等の推進</li> <li>森林づくり活動、沿岸漁業再開の推進</li> </ul> <p><b>&lt;ふくしまブランドの回復・強化&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふくしまの恵みイレブン」品目の作付拡大や県オリジナル品種の活用などによるふくしまブランドの回復・強化</li> </ul>
<p><b>風評払拭・消費拡大運動</b></p> <p><b>&lt;消費者の県産農林水産物に対する理解促進&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検査結果、生産履歴の見える化</li> </ul> <p><b>&lt;県産農林水産物の消費拡大と食育の推進&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者、公共施設等における利用促進、地域産業6次化、観光との連携による県産農林水産物の消費拡大と食育の推進</li> </ul>	<p>Future From Fukushima. ふくしまから はじめよう。</p>	<p><b>情報発信運動</b></p> <p><b>&lt;県内外への情報発信&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種媒体による情報発信の強化</li> <li>頑張る農林漁業者の姿の紹介</li> <li>消費者や流通業者の交流と理解促進</li> </ul> <p><b>&lt;世界へ向けた情報発信&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の多言語化</li> </ul>

2

## 2. 食の安全・安心運動

### <安全対策の徹底による食の安全確保>

- ・農林水産物の検査体制の強化
- ・安全な農林水産物の生産推進

### <消費者の食への安心感の醸成>

- ・安全確保対策等のわかりやすい情報提供等により消費者の食の安心感につなげる。

## 3. 生産再生運動

### <力強い農林水産業の生産体制の整備>

- ・意欲ある担い手の育成、生産基盤の整備、農地の集積等の推進
- ・森林づくり活動、沿岸漁業再開の推進

### <ふくしまブランドの回復・強化>

- ・「ふくしまの恵みイレブン」品目の作付拡大や県オリジナル品種の活用などによるふくしまブランドの回復・強化

## 4. 風評払拭、消費拡大運動

### <消費者の県産農林水産物に対する理解促進>

- ・検査結果、生産履歴の見える化

### <県産農林水産物の消費拡大と食育の推進>

- ・消費者、公共施設等における利用促進、

地域産業6次化、観光との連携による県産農林水産物の消費拡大と食育の推進

5. 情報発信運動

＜県内外への情報発信＞

- ・各種媒体による情報発信の強化
- ・頑張る農林漁業者の姿の紹介
- ・消費者や流通業者の交流と理解促進

＜世界へ向けた情報発信＞

- ・情報発信の多言語化

第三章 新生運動と果樹園の活性化

1. まるせい果樹園の概要
2. まるせい果樹園の取組
3. 東日本大震災による影響
4. 新生運動と果樹園の課題

第四章 総括

1. 考察
2. 変化する「食」と「需要」
3. 今後の課題
4. 謝辞
5. 参考文献、HP一覧